



二子玉川 100年の 未来ブック



— これからの「まち」「ひと」「おもい」—

玉川町会・二子玉川100年懇話会

二子玉川で日々暮らしている人たちや、働いている人たちが中心となって、“自分たちの「まち」のこれから”について考えました。そして、まちの未来とそこでの生活について「おもい」を巡らし、意見を交わし、対話をしながらまとめたのが、この『二子玉川100年の未来ブック』です。

二子玉川というまちは、現在、大きく成長し変化していますが、昔から変わらない良さも持ち続けています。そんなまちの今までと、わたしたちが想像するこれから先100年の姿を、まちに関わる人たちに向けて手渡していきたい。そうしたおもいを抱きながらわたしたちは、ささやかながら様々な活動を続けています。

この冊子を手にとったあなたが、どんな形であれ、二子玉川のまちに興味を抱き、関わっていただけたら。そのための手がかりを是非、見つけてください。



二子玉川ってどんなところ？

▶ 渋谷からの距離

現在は急行電車で10分

昔は牛車で2時間

1907年(明治40年)、当時の玉川電気鉄道により、渋谷ー玉川間を結ぶ軌道線(路面電車)「玉川線」、通称「玉電」が開業。市民の足として世田谷の発展に大きく寄与し、その後、車体は「ペコちゃん」の愛称で親しまれるようになるものの、クルマの増加による道路混雑から1969年に廃線。後に「新玉川線」(2000年より田園都市線に編入)として同じ区間の地下に開通し、現在では渋谷ー二子玉川間9.4kmを最高時速90kmで結んでいます。

▶ 世帯数(2014年)

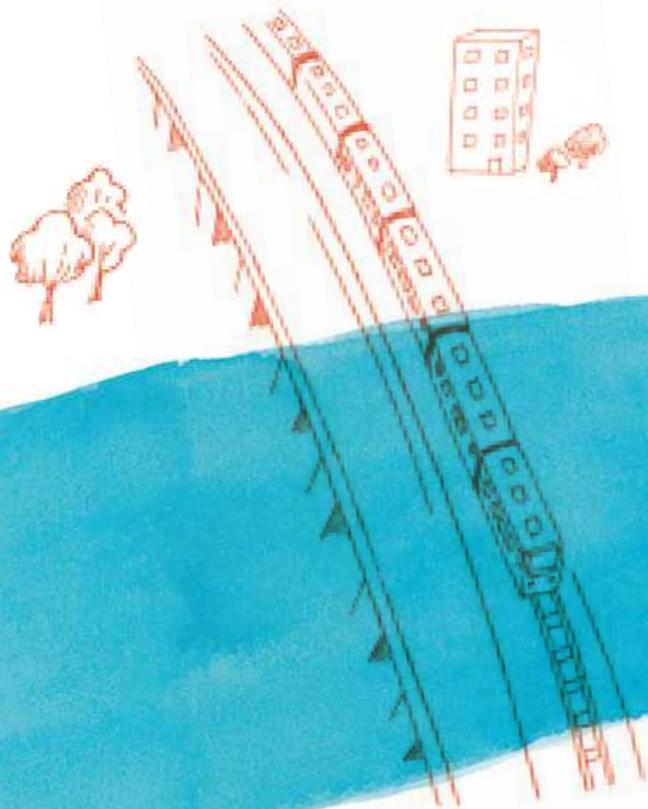
玉川町会世帯数が6,258世帯※1

1920年世田谷区全体の世帯数が6,670世帯※2

若年ファミリー世帯が多いイメージの二子玉川。しかし、玉川町会に限ってみると、世田谷区全体と比較して20代前半以下の人口比率が少なめであるという意外な統計もあります。二子玉川に集まるファミリーは、玉川町会だけでなく玉川台・野毛・岡本・鎌田・宇奈根などの周辺地域に住んでいる人や、さらに電車などを利用して遠方から訪れる人によって構成されているといえるでしょう。



※1 2014年12月1日(住民基本台帳) ※2 1920年10月1日(国勢調査)



▶ 1日の乗降客数(2013年)

二子玉川駅乗降客126,395人
1920年玉電全体で11,226人

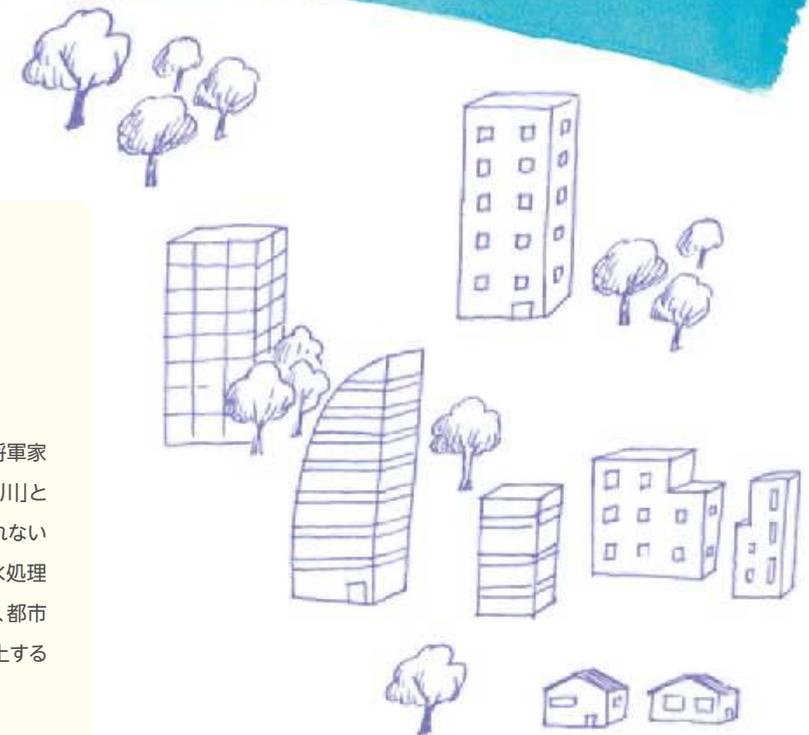
1920年(大正9年)当時、二子玉川駅の乗降客を支えたのは多摩川河川敷の行楽地と1922年に開設された「玉川第二遊園地」(後の二子玉川園、1985年閉園)でした。航空ショーをはじめ、様々な催し物が開催され、最盛期には年間60万人の来街者がありました。その後も1969年に開業した玉川高島屋S・Cや、2011年に開業した二子玉川ライズが来街者を引き継ぎ、現在も継続的に乗降客数が増加しています。

▶ 花火の打ち上げ数

12,000発[※]
1910年頃から100年以上の歴史を誇る

二子玉川の夏の風物詩として、毎年35万人以上の人が集まる世田谷区たまがわ花火大会は、川崎市制記念多摩川花火大会と同時開催。「玉川八景」とも称された風光明媚な景勝地に立ち並ぶ料亭が、客寄せの行事として花火を打ち上げたのが始まりです。1910年頃から100年以上の歴史があるこの花火大会。多摩川の広い河川敷を活かして、東京ではなかなか見ることのできない10号(尺玉)花火が打ち上げられることも大きな特徴となっています。

※世田谷区たまがわ花火大会と川崎市制記念多摩川花火大会の合計



▶ 防犯パトロールの年間延べ参加者数(2012年度)

757人
1・2丁目コース359人、3・4丁目コース398人

毎月5の付く日は町会が実施する防犯パトロールの日です。黄緑色の防犯ベストを着て「玉川町会」と書かれた提灯や防犯灯を手に、4コースに分かれて防犯や交通安全の呼びかけをしながら町内を回ります。参加者は、住民、商店街の人、企業の人など多種多様です。さらに12月25日～31日までは、歳末夜警として通常より大規模にパトロールを実施しています。

▶ アユの遡上数(2014年)

年間520万匹[※]
水質改善により10年間で10倍に

江戸時代初期、多摩川は江戸に最も近いアユの産地として、将軍家にも上納されていました。その後、高度経済成長期には「死の川」とまで呼ばれるほどに水質が悪化し、アユの姿がすっかり見られない時代もありました。しかし、上流域での植林活動、河岸の下水処理施設の整備、流域内に9つある堰への魚道整備などを通じて、都市近接の河川としてはまれにみる清流となった結果、今では遡上するアユの数が年々、増加しています。

※国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所調べ

イラストレーション：村上テツヤ

まちづくり基本方針案

二子玉川駅東側の再開発が進み、2015年春に開業を迎えることによって、二子玉川はまた大きく変わろうとしています。仕事をするためにまちに来る人、まちに暮らし始める人、買い物や遊びに来る人…様々な人たちがそれぞれに抱く「二子玉川」の姿を共有しながら、これからのまちづくりにつなげていくことがとても大切だとわたしたちは考えます。二子玉川100年懇話会(裏表紙参照)まちづくり研究会では、まちに関わる人が実際に出会い、会話し、思い描いている「未来」について意見を交換する場として、2013年度下期に5回のテーマ別勉強会&意見交換会、さらに2014年7月に前年度の活動を踏まえたまとめの会を開催しました。また同年9月には、それまでにあがった意見を整理して「まちづくりの基本方針(案)」を作成し、とりまとめた内容を発表するシンポジウムを開催しました。

STEP1

5回の勉強会&意見交換会

2013年度下期に5回の勉強会&意見交換会を開催。100年懇話会のメンバーを中心に、延べ243人に参加していただきました。



STEP2

意見のまとめの会

5回の勉強会で出てきた意見のまとめの会を2014年7月に開催。まちづくりのなかで「気がかりに思っていること」が整理されました。



STEP3

これからのまちづくりに向けた 基本方針案づくり

整理された「気がかりに思っていること」を解決するために、二子玉川のこれからのまちづくり基本方針案をつくりました。2014年9月のシンポジウムで発表し、多くの方と共有しました。



基本方針案策定

これからのまちづくりで
大切にしたい5つの項目を
基本方針案としてまとめました。

新しく住む人に
二子玉川の歴史や文化
を知ってもらう機会を
つくりたい

基本方針案 その1

みどり・歴史・文化



多摩川の水辺や自然環境、
歴史・文化を感じられるまちづくり

今あるみどりを
これからも守りたい

地震などの災害対策や
日々の防犯対策を
近隣の人と一緒にできる
関係をつくりたい

基本方針案 その2

安全・安心



安全で安心して暮らせる
まちづくり

地域の生活道路を
もっと安全に歩ける
ようにしたい

活気があって、
歩いて楽しい
まちにしたい

基本方針案 その3

にぎわい



多くの人が楽しく集う
にぎわいづくり

様々な人を集めて、
まち全体の活性化
を一緒に進めたい

まちに住む人々が
楽しくつながることが
できる機会を増やしたい

楽しいだけでなく、
環境にも配慮した住み方が
できるようになりたい

基本方針案 その4

住み心地



誇りと愛着の持てる
生活環境づくり

まちづくりにもっと
様々な人が積極的に
関わられるようにしたい

基本方針案 その5

しごと



暮らしとしごとの
つながりづくり

子育て世代やシニア
世代がまちで楽しく働ける
環境を整えたい

これからさらに増える
企業や働く人々と
住んでいる人々が一緒に
まちづくりを進められる
ようにしたい



基本方針案 その1

みどり・歴史・文化

- ① 多摩川や国分寺崖線などの大きな自然に囲まれた地理的特性を活かしながら、河川敷、緑道といった身近なみどりを積極的に創出し、これらを活用して「かわ」と「まち」の良好な関係づくりを目指します。
- ② 大山道をはじめとする二子玉川周辺の歴史・文化を守り、正しく伝えるために、歴史継承に関連する情報を集め管理する仕組みをつくり、さらに伝えていくための人の輪を広げます。
- ③ スポーツやアートのイベントなどに多くの人がふれる機会を増やすことにより、これらの多様な文化を育む素地をつくります。

二子玉川郷土史会 副会長
大勝庵 玉電と郷土の歴史館 館長
大塚 勝利さん



> Interview

二子玉川のまちには、みなさんがあまり知らないような地域の歴史の物語がたくさんあるのよ。景勝の地だったから別荘邸宅があったし、三業地だったから料亭もあった。それに多くの観光客が来た二子玉川遊園地でしょ。砧線もね。「世田谷ロマン」っていうのかな、そういうのを忘れ去られないようにしたいの。

たとえば
こんな
まちづくり

二子玉川スポーツ少年団

～まちづくりにも積極的に参加～

二子玉川の小学生を中心にスポーツ少年団(野球部、サッカー部)が活動しています。各大会への出場のほか、まちの美化活動(写真)や、地域のイベントにも積極的に参加しています。



二子玉川大山みちフェスティバル

～大山道を通じた新旧住民の交流～

かつて大山阿夫利神社へ通じる道であった大山道。この地域の資産を通して、まちに愛着を感じてもらえるような企画や、住民同士の交流の場となる企画に取り組んでいます。



二子玉川郷土史会

～まちの歴史を残し、伝える～

二子玉川地域の歴史や文化を正しく、広く伝えるための活動を行っています。学習会や講演会のほか、玉川での昔の生活の様子を基にした演劇を上演するなど、様々な活動を通して、二子玉川に愛着を感じる人々を増やす取り組みを行っています。



ご近助広場

～いざという時の助け合い拠点～

東日本大震災がきっかけとなり、いざという時に近くに住民同士で助け合うことができる玉川町会オリジナルの仕組みをつくりました。「ご近助広場」協力世帯には、有事の際の安全確認や救助活動、情報共有などをお願いしています。



たとえば
こんな
まちづくり

防犯パトロール

～まちの安全・安心は住民自らの手で～

毎月5の付く日には玉川町会の提灯や防犯灯を持って、防犯や交通安全に関する声かけをしながら町内を回っています。玉川1～4丁目の計4コースで実施しています。



ゾーン30

(二子玉川地区交通環境浄化推進協議会)

～交通安全をみんなで考える～

23区で初めて住民発意による「ゾーン30[※]」の指定を受け、警察、区、大学と連携して交通安全活動に取り組んでいます。また、この活動の啓発を小学校や高校などとも協働しながら行っています。



※ゾーン30とは？

歩行者とクルマが共存する生活道路において、歩行者等の安全確保を主な目的とする交通静穏化策のひとつです。区域(ゾーン)を定めて時速30キロの速度規制を実施するとともに、さらなる交通規制と路面表示や物理的な対策、啓発活動を組み合わせ、区域内のクルマの速度抑制や通過交通抑制を図るものです。

玉川町会 企画部 (防火防災担当)

河野 直一さん



> Interview

防災も防犯も、実は、普段からのコミュニケーションがあるだけでも良いと思うのです。たとえば、夕暮れ時、高齢者が自然に集まって、ちょっとワインでも飲むかななどと言いながら、たわいない話をする場所がある。ちょっとだけ着飾って、人生を語ったりする。そんな風にお互いを知り合う場所があれば良いのかも思いませんね。



基本方針案 その2

安全・安心

- ① より良い交通環境を目指し、住民、商業者、公的機関などのまちの関係者が交通規制への取り組みや歩行空間の整備、交通安全マナー啓発活動などとともにを行うことにより、安全で快適なまちづくりを進めます。
- ② 来街者など多くの人が行き交うまちの特性を考慮し、災害に強い街並みの形成を進めるとともに、住民、商業者、公的機関などのまちの関係者との連携を深めることにより、効果的な災害対策を進めます。
- ③ 子どもから高齢者までが安心して暮らせるように、日頃から住民同士が助け合える関係づくりを進め、災害や犯罪に強いまちを目指します。



基本方針案 その3 にぎわい

- 1 歴史・文化や自然資源のほか、商業的な拠点を巡る回遊ルートの充実を図り、案内表示を設置するなどの環境整備を進めることにより、まち全体を行き来したくなる仕組みをつくります。
- 2 住民だけでなく来街者など多くの人が気軽に楽しめる仕組みやきっかけをつくり、常ににぎわいと活気のあるまちを目指します。
- 3 住民、商業者、公的機関など、まちの関係者をはじめとした、二子玉川というまちを愛するすべての人が実施するイベントにおいては、常にお互いが連携できるようににぎわいづくりを支える体制をつくります。

二子玉川振興対策協議会 会長
名川精米店 店主
名川 志信さん



> Interview

二子玉川のまちには、大きな商業施設や商店街があります。また、自然豊かな多摩川もあつたり、歴史のある神社仏閣もあつたりします。イベントなどの魅力だけでなく、そういう資源をすべて含めて魅力的で、本当に楽しく歩けるまちにしたい。そのためにまち全体を歩きたくするような取り組みがしたいですね。

たとえば
こんな
まちづくり

二子玉川商店街アート&マート

～商店街通りがアートでにぎわう～

4月と11月に二子玉川商店街の通りでアートイベントを開催しています。店先ではアーティストによるライブペインティング、通りにはチョークによるラクガキや路上カフェが現れ、商店街がいつもと違う姿に変身します。



盆おどり

～夏の納涼イベント～

毎年7月下旬に、二子玉川西地区ふれあい広場に大きなやぐらと提灯が並べられ、盆おどり大会が開催されます。夏の風物詩として多くの人が納涼の夕べを楽しみに訪れます。



例大祭

～まちなかを神輿が練り歩く～

毎年10月第3日曜日を含む土・日に、瀬田玉川神社の例大祭が行われます。玉川町内では例大祭の1週間前から神所、神輿小屋の設営、神輿づくりが行われます。当日は、小神輿(子ども神輿)、中神輿、大神輿が回り、町内外からたくさんの方が担ぎ手として参加します。



二子玉川花みず木フェスティバル

～自然を楽しむ春まつり～

毎年4月29日、「太陽と緑と水のまち二子玉川」をキャッチフレーズに、自然環境保護をテーマとして、多摩川河川敷にある兵庫島公園などを会場に開催しています。地元の方々によるステージやフリーマーケット、物産展などにより、たくさんの人でにぎわいます。



ミズベリングニコタマ会議

～多摩川とわたしたちの未来をともに考える～

かわとまちが一体となった美しい景観とにぎわいをつくるミズベリング活動。二子玉川でも多摩川とまちを愛する関係者が連携し、水辺のにぎわいづくりに向けた活動が始まっています。



世田谷区たまがわ花火大会

～伝統の花火大会はたくさんの人でにぎわう～

毎年8月下旬に開催される多摩川での花火大会は、地域の方々も出店する多くの模擬店や東北の復興支援物産展でにぎわいます。翌日には、二子玉川スポーツ少年団の子どもたちも参加して多摩川クリーン作戦が行われるなど、イベント後の環境美化にも配慮しています。



©世田谷区



基本方針案 その4

住み心地

- ① サークル活動やイベントなどに誰でも気兼ねなく参加できて、人とのつながりを深めることができる機会を増やすことにより、住民が日々の暮らしに楽しみを感じることができるまちにします。
- ② 快適で利便性の高いまちの仕組みづくりを進めるとともに、次世代に豊かな環境を残すため、持続可能なまちづくりへの取り組みも視野に入れた住環境づくりを進めます。
- ③ どんな人もどんな考え方の人でも受け入れられる土壌をつくとともに、まちに関わる機会を増やし、知ることによってまちに誇りと愛着を持つ人を増やします。



ふたこのよいこサポート隊
隅田 文子さん

> Interview

子どもたちには、人とのふれあいを通して玉川のまちの思い出をいっぱいつくってもらいたい。そうすれば子どもたちが大きくなった時にこのまちが「素敵なふるさと」になると思うのです。わたしたちがやっているのは、まちと子どもたちをつなぐお手伝い。中心ではないけれど、これもまちづくりの一部なのだと思います。

たとえば
こんな
まちづくり

青少年の居場所づくり (フリースペース だがしやおかしモ)

～若者たちによるお休み処～

大学生を中心としたボランティアが青少年の居場所づくりの活動として、二子玉川商店街の商店会館で駄菓子屋兼お休み処を運営しています。子どもだけでなく高齢の方まで幅広い世代に人気です。



二子玉川通り名検討委員会

～すべての通りに名前を～

通りに名前が付いていれば、災害や事件・事故といった緊急時の迅速な対応や観光案内などに役立ちます。また、住民自身が通りやまちに愛着を感じることも期待できます。そこで、すべての通りに名前を付けることを検討しています。



小学生へのワークショップ (ふたこのよいこサポート隊)

～まちと子どもたちをつなぐ思い出づくり～

二子玉川小学校でのワークショップを通して、子どもたちが地域の大人とふれあうきっかけをつくっています。また、商店街フラッグや灯笼をつくるなど、地域団体との橋渡しの役割も担っています。



商店街での奉仕授業

～地域の課題を学生と考える～

二子玉川商店街と二子玉川地区交通環境浄化推進協議会、世田谷区、近隣の大学などが連携して、商店街の交通安全を考える取り組みを世田谷総合高校の奉仕授業の一環として行っています。



たとえば
こんな
まちづくり

街情報プロジェクト

～地域の情報をわかりやすく届ける～

地域の活動やイベント情報をまとめてわかりやすくデザインしたポスターを町会掲示板などに掲示して、多くの人に伝える仕組みづくりを進めています。また、掲示板のベースマップを災害マップにするなど、非常時に必要となる地域情報の発信や伝達についても取り組んでいます。



COLUMN

「しごと」と「まちづくり」をつなげる取り組み

東地区再開発などによるオフィスの増加から、二子玉川には多くの就業者が訪れるようになりました。企業に勤める人以外にも、クリエイターなどの個人事業者や、公共団体・学術機関・NPO法人で活動する人など、多種多様な人が集まりつつあります。このように「しごと」を通じて二子玉川を訪れる人が地域と交流し、まちづくりに参加できる仕組みが動き出しています。

たとえば、企業75社が集まってまちづくりと企業活動の連携を考える「クリエイティブ・シティ・コンソーシアム」や、その活動拠点となる「カタリストBA」の開設など、企業や就業者と地域が交流する新たな機会が生まれています。

また、世田谷区内のまちづくり活動を支援するプログラム（キラ星応援コミュニティ）を通して、まちづくりの活動を「なりわい」につなげたり、継続性のある取り組みを生み出し、コミュニティ全体で支えるような活動も始まっています。

今後も「しごと」と「まちづくり」をつなげる取り組みがますます進んでいくことが期待されています。

> Interview

地域で何かに取り組んでみたいというおもしろい人と、それを支えることができる人とをうまくつなげて活かしていく仕組みがあることが二子玉川のすごいところ。地域住民同士はもちろん、大学・高校や企業などが、お互いがそっぽを向かず、前向きな関係を育て続けていくことが、これまでも、そしてこれからも、とても大事ですね。

国士舘大学 理工学部 教授
寺内 義典さん



基本方針案 その5

しごと

- ① 複数企業が集まる“働くまち”としても発展できるように、職住近接の特徴を活かし、企業の活動と住民の豊かな暮らしが共存共栄できるまちづくりを進め、地域と支え合う企業との交流を深めます。
- ② 就業者や学生のほか、企業を訪問する来街者などに対しても、地域とふれあえる仕組みやきっかけづくりを進め、まちの活動に企業や学術機関などの力を活かすことができる関係づくりを進めます。
- ③ 子育て世代やシニア世代などが、時間を工夫しながら地域で自分らしく働ける仕事を増やすことにより、多様な働き方を選択できる環境を整えます。

100年後の未来空想マップ

100年後、二子玉川はどんなまちになっているのでしょうか。

このまちがどのように成長し、人々がどんな生活を送っているのか、いつもより余計に想像力を働かせて描いてみました。

たとえば、こんな未来。ちょっとおもしろくてステキではないですか？



日本一楽しく歩きやすいまちへ

子どもからお年寄りまで、多様な世代が暮らすまちとして、誰もが安全にまちを往来できるようにと始まったゾーン30 (P6参照) などの安全・安心な交通環境づくりが、まちの全域まで広がっている。クルマの利用者が減る一方で、人と環境に優しい電動の小型モビリティなどが普及し、「日本で最も歩きやすいまち」と言われるようになる。



地域を語り継ぐまちの図書コーナー

先進的な教育研究機関とともに最新の図書館が運営されている一方で、知的好奇心の高いまちの住民が、いたるところにミニ図書館を設立している。店先はもちろん、公園や河原などいたるところで、独自の編集による個性あふれる蔵書に誰もがアクセスできる。また、身近な地域のエピソードを収めたまちの歴史の貴重な記録も収蔵されていて、日頃から多くの住民に親しまれている。

住民全員で満喫するキャンパスライフ

住民誰もが参加できるまちぐるみの学校が活況を呈している。子どもから大人まで、教えたい人と教わりたい人のニーズをマッチングさせ、世代を超えた住民相互の教え合い、学び合いをサポートできるようになっている。地域住民との交流を深め、まち全体での学習環境整備を研究するために、世界中から学者や研究者がやってくるケースも増えており、国際学術都市としての認知も高まりつつある。

毎日散歩しても飽きないまちなかのにぎわい

これまでまちを東西に分断していた幹線道路が、クルマ中心社会から歩行者中心社会へと移行するなかで、にぎわいと歩きやすさを兼ね備えた新しい道路として生まれ変わり、まちに愛される道沿いの文化を創り出している。まちの東西を容易に行き来することができるようになり、多くのイベントや屋外マーケットなど、にぎわいスポットとしても大人気である。一方、従来の幹線道路としての機能は一部地下化されることにより、今まで以上に人やモノの流れが活性化している。





顔見知りが増える地域交流スペース

シェアハウスやシェアオフィスに留まらないシェアが進み、シェアワーキングやシェアハウスキーピングなどが当たり前となっている。そのベースとなるのは地域コミュニティ意識の高まりであり、まち全体にシェア行動が拡大され、多世代共生はもちろん、様々な相互支援の形を実現している。地域のコミュニティスペースでは、昼夜を問わず、老若男女が楽しく交流できるようになっている。

多摩川をフル活用して水辺遊びのメッカに

多摩川およびその河川敷は、自然遺産として非常に豊かな自然環境が保全されている一方で、子どもは川遊び、大人はアユ釣りといった様々なアクティビティが体験できる自然公園としての活用が定着している。河川敷にはカフェやアウトドアオフィスなども並び、川の流れを利用したエネルギー開発や、水上交通なども発達。二子玉川のにぎわいの大きな拠点として多くの利用者が訪れている。



世界自然遺産に登録される多摩川河川敷

生活の場の傍らにいつも流れる多摩川の流域や、国分寺崖線周辺の自然環境が、日常的な住民活動によって保全管理されている。その結果、この数百年で最も健やかで豊かな生態系を保持するようになり、世界自然遺産にも登録。世界中の環境学者、都市研究者、生物学者などから熱い注目を浴びようになっている。

災害時にも助け合える地域共助の仕組み

100年後であっても、震災をはじめとした自然災害は予測のつかない大きな脅威であり、防災はまちの住民にとって重要な課題である。震災などの際に住民共助により被害低減を図った経験から、防災コミュニティの意識はさらに高まっており、ご近所広場 (P6参照) の仕組みに全世帯が参加して、都市防災の優れたモデルとして大きく評価されることになる。



結びつくごとと暮らし

まちに住む子育てママやリタイアシニアなどによって、まちを良くするスモールビジネスの立ち上げが盛んに行われ、そうしたビジネスがまちづくりの一部を担うようになっている。自分たちのまちに対する貢献意識を持ったママさん起業家やシニア起業家を、住民、企業、自治体などが積極的に応援する気運と仕組みがあり、地域オリジナルの楽しく便利なサービスや商品が頻繁に発表されるようになっている。



100年後に向けて

「100年先を見据えたまちづくり」を進める二子玉川。

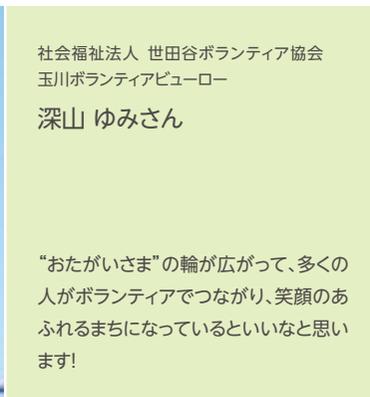
このまちで実際に活動する人々がどのようなおもいを持っているのか聞いてみましょう。



玉川町会 会長
二子玉川100年懇話会 会長

芳賀 孝さん

西と東、企業と住民と一緒にまちづくりを進める。新しい人の知恵を拝借しながら、まちを良くしていく。そういったまちづくりの考え方で、二子玉川に住む方々が安心して生活できるまちになるのが一番大切だと思うよ。



社会福祉法人 世田谷ボランティア協会
玉川ボランティアビューロー

深山 ゆみさん

“おたがいさま”の輪が広がって、多くの人がボランティアでつながり、笑顔のあふれるまちになっているといいなと思います!



西河製菓店 和菓子職人
如澤 賢一郎さん

100年後も商店街があるといいね。和菓子屋もあって、みんなが正月には餅を、普段のおやつには和菓子を食べているといいね。

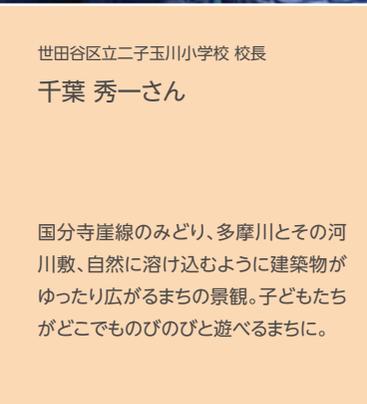


街情報プロジェクト
メンバーのみなさん



玉川町会 企画部長
戸田 允易さん

子どもからお年寄りまでが共存しながら一緒にまちづくりに取り組むといいね。昔の良いところは活かしながら、新しいアイデアも取り入れることが、玉川ではできると思うんだよね。



世田谷区立二子玉川小学校 校長
千葉 秀一さん

国分寺崖線のみどり、多摩川とその河川敷、自然に溶け込むように建築物がゆったり広がるまちの景観。子どもたちがどこでものびのびと遊べるまちに。



二子玉川小学校PTA 会長
小田 直子さん

子どもも大人もいろんな人が楽しめる場所があっちこちにあって、子どもが大声を出して走り回れるようになると良いと思う。



玉川町会 事務局長
中村 輝之さん

人の安全が確立された世界になるといいね。未来の二子玉川は、クルマと人がきちんと分離されているようなまちかもしれない。ただ、その頃にはクルマも自転車も無いかもしれないけどね。

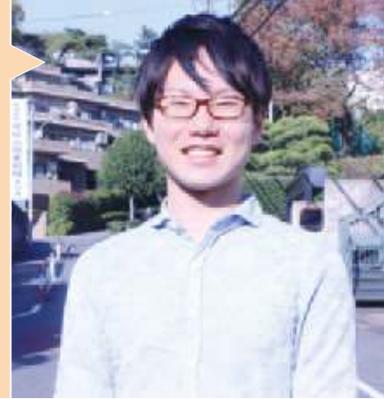


二子玉川通り名検討委員会
メンバーのみなさん



地域活動コーディネーター
藤本 リュウタさん

まちの主演は小中高大生世代!!!子ども・若者のワクワクする発想で二子玉川を盛り上げてくれているといいよね!



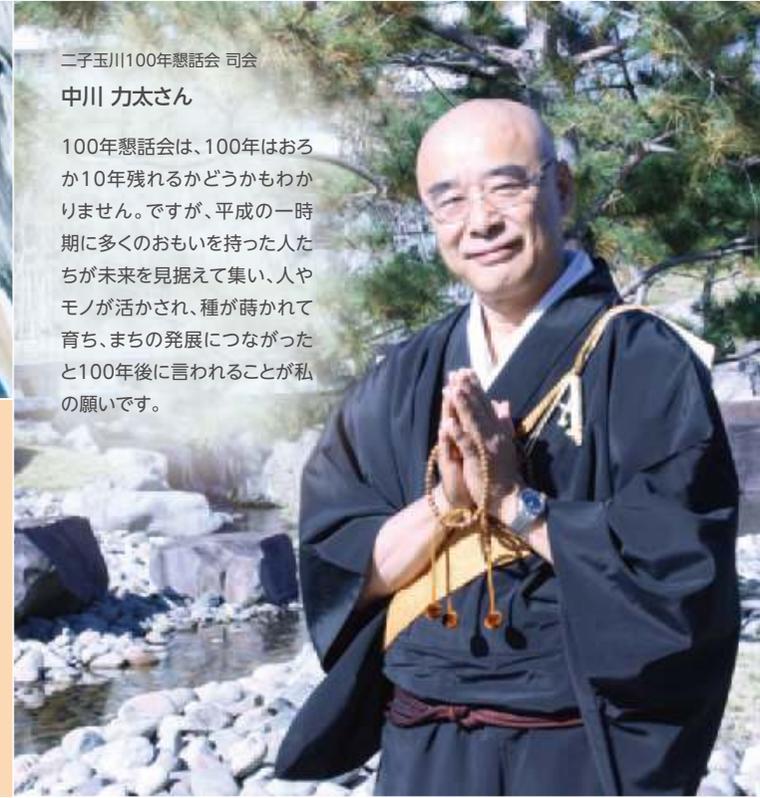
イラストレーター
墨絵画家
涌井 陽一さん

ずっと昔から人が集まっていた場所、100年後も自然に人が集まる場所であってほしい。その流れを今もつくりたいらいいな、と思っています。



二子玉川100年懇話会 司会
中川 カ太さん

100年懇話会は、100年はおろか10年残れるかどうかもわかりません。ですが、平成の一時期に多くのおもいを持った人たちが未来を見据えて集い、人やモノが活かされ、種が時かれて育ち、まちの発展につながったと100年後に言われることが私の願いです。



フリースペース だがしやおかしモ
「常勤中学生」

金子 新さん

駄菓子屋で出会った友達と一緒にわいわいゲームしたり。ゲームの中身は新しくなるかもだけど、そういう関係は100年後も案外変わらないと思うな。



二子玉川駅 駅長
岸 哲也さん

100年後も、まちのみなさまに愛され続ける駅と鉄道であるように、安全・安心を最優先に笑顔あふれる電車を走らせ続けていきます。



ミズベリングニコタマ会議
メンバーのみなさん

NPO法人玉川にエコタウンを作る会 代表
トシコ・スチュワートさん

川と崖線のセットが玉川の魅力。100年後に崖線のみどりがゼロにならないよう、まち全体で自然を守り続けていけると良いですね。



二子玉川西地区まちづくり協議会 会長
二子玉川スポーツ少年団 本部長
土屋 明人さん

二子玉川を子どもたちが世界に羽ばたくための基地のようにしたいね。サッカーの草の根活動がそのきっかけになるといいね。



二子玉川100年懇話会とは？

二子玉川100年懇話会は、二子玉川駅周辺の町会である玉川町会が中心となって立ち上げた「100年先を見据えたまちづくり」を考えるための会です。地域の関係団体、小学校やPTA、世田谷区、玉川警察署、二子玉川にある2つの商店街、玉川高島屋S・C、東神開発、東急電鉄などとともに、2009年より2カ月に1回集まって情報交換などを行っています。また、ここでは、まちづくりの課題に取り組む有志によって各種プロジェクトを実施しています。これまでに、新規に加入した世帯へ向けて歴史や地理などの情報を掲載した「ものしりマップ」や災害時に必要な情報をまとめた「震災対策マップ」の作成・配布、震災時の共助の仕組みである「ご近助広場」の構築、町会掲示板の有効活用のための「掲示板デザインプロジェクト」などの活動を実施してきました。これらのプロジェクトは、まちに関わる人が自らつくり出す公益的取り組みでもあることから、公共を担うという面においても期待が大きく、現在の「世田谷区基本構想」にある「区民が主体的に公共にかかわる」という基本理念とも軌を一にしています。

「二子玉川まちづくりへの基本的な考え方」とは、2009年に世田谷区が策定し、二子玉川100年懇話会の活動開始の契機ともなった、まちづくりの基本方針です。

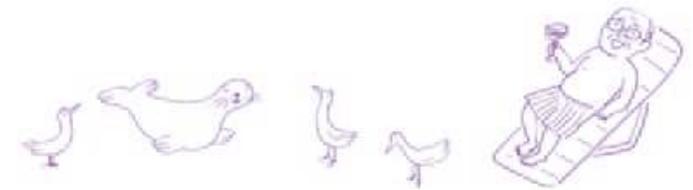
二子玉川周辺地区は、区の「広域生活・文化拠点」(当時は「広域生活拠点」)に位置づけられています。にぎわいのある地区として発展してきた二子玉川において、今後さらに大きく発展していくにふさわしい、二子玉川全体のまちづくりを考えるため、世田谷区が住民参画で地域の課題や資料の整理を行ってまとめたものがこの「考え方」です。この「考え方」が行政の二子玉川におけるまちづくりに活かされています。

また、二子玉川100年懇話会でも、この「考え方」に基づいてプロジェクトやメンバーがそれぞれの所属ごとにまちづくり活動を進めてきました。そして今回「まちづくり研究会」の活動として、二子玉川のこれらに向けて住民主体のまちづくりの視点で整理したものが本冊子で紹介する「まちづくりの基本方針(案)」です。これからのまちづくりの指針として、行政、住民、各種団体、企業が共有し、それぞれの活動に活かしていくことが期待されます。

参加団体：玉川町会、玉川商店街振興組合、二子玉川商店街振興組合、二子玉川振興対策協議会、二子玉川料飲会、二子玉川地区交通環境浄化推進協議会、二子玉川西地区まちづくり協議会、二子玉川鶴寿会、二子玉川郷土史会、玉川消防団第七分団、区立二子玉川小学校、二子玉川小学校PTA、二子玉川小学校同窓会、二子玉川スポーツ少年団、ふたこのよいこサポート隊、玉川ボランティアビューロー、二子玉川東第二地区市街地再開発組合、東神開発株式会社、玉川高島屋S・C、東京急行電鉄株式会社、クリエイティブ・シティ・コンソーシアム、玉川警察署、世田谷区

プロジェクト：

- ・ものしりマップ作成(2010年)
- ・震災対策マップ作成(2011年)
- ・ご近助広場(2011年～)
- ・交通安全対策プロジェクト(2011年～12年)
※2012年から二子玉川地区交通環境浄化推進協議会の交通部会へ移行
- ・街情報プロジェクト(掲示板デザインプロジェクト ほか)(2012年～)
- ・二子玉川通り名検討委員会(2013年～)
- ・保育環境検討委員会(2013年～)
- ・まちづくり研究会(2013年～)
- ・帰宅困難者プロジェクト(2014年～)



発行日：2015年1月31日

発行人：玉川町会・二子玉川100年懇話会

編集：二子玉川100年懇話会 まちづくり研究会 事務局

住所：〒158-0094 東京都世田谷区玉川二丁目2-1-209

電話/FAX：03-3700-0905(玉川町会会館)

協力：クリエイティブ・シティ・コンソーシアム